

代田 まちの^のみらい会議

第2回 開催記録

「まちの目標（方向性）を確認して、アクションを考えよう」



1. 実施概要

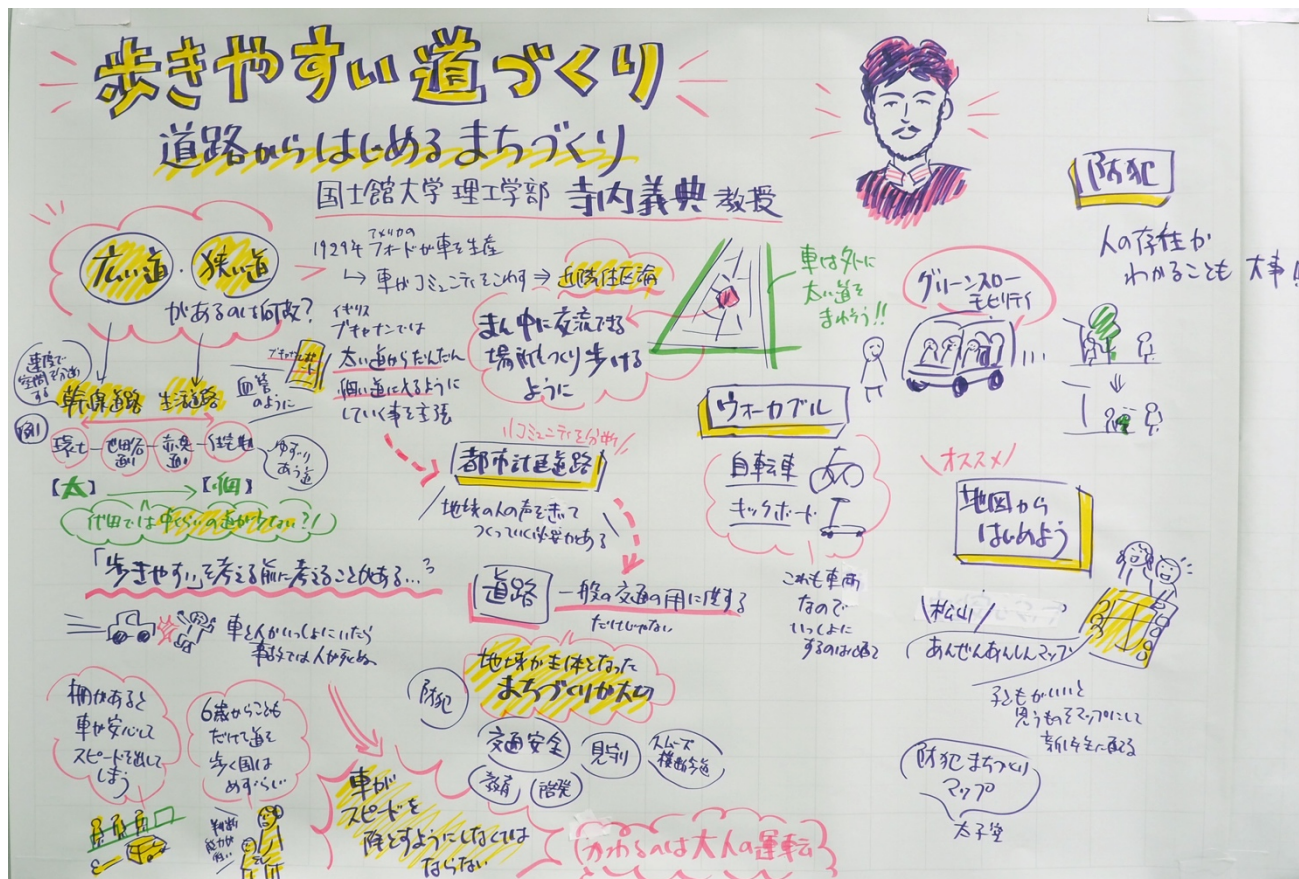
日時	2024 年 12 月 1 日（日） 13:30～16:00
場所	北沢タウンホール 2 階 1・2 集会室
参加人数	合計 19 名（会場 18 名・オンライン 1 名）
目的	第 1 回みらい会議やアンケートの調査結果、協議会提案等を踏まえて構成したまちの目標（方向性）や具体的な施策となるアクションのアイデアについて、各グループで意見交換を行った。

2. プログラム

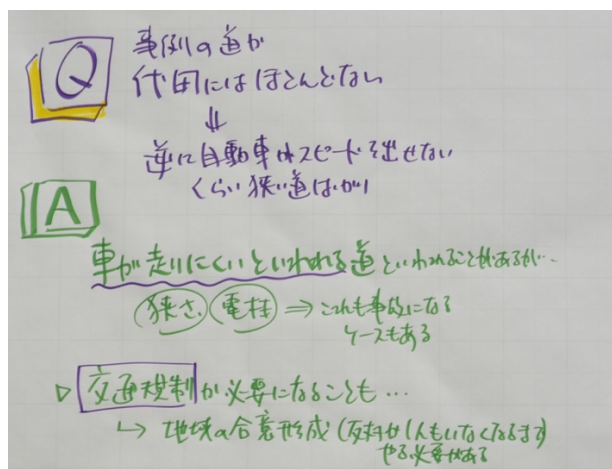
時間	概要
13:30	① 開会・挨拶 ② 代田のまちの未来に投票しよう！ アンケート結果報告
13:40	③ 講座「歩きやすい道づくり」 国士舘大学 理工学部 寺内義典 教授
14:30	④ 意見交換 「まちの目標（方向性）を確認して、アクションを考えよう」 0) 目標とアクションの説明 1) ワークの進め方の説明 2) 自己紹介 3) 代田のまちの目標を確認しよう 4) 目標を実現するためのアクションを考えよう
15:40	⑤ 発表
15:50	⑥ まとめ ・ふりかえり ・寺内先生からの感想 ・世田谷区課長からの感想
15:58	⑦ 事務連絡 ・次回の案内
16:00	⑧ 閉会

3. 講座「歩きやすい道づくり」

〔講座のまとめ〕

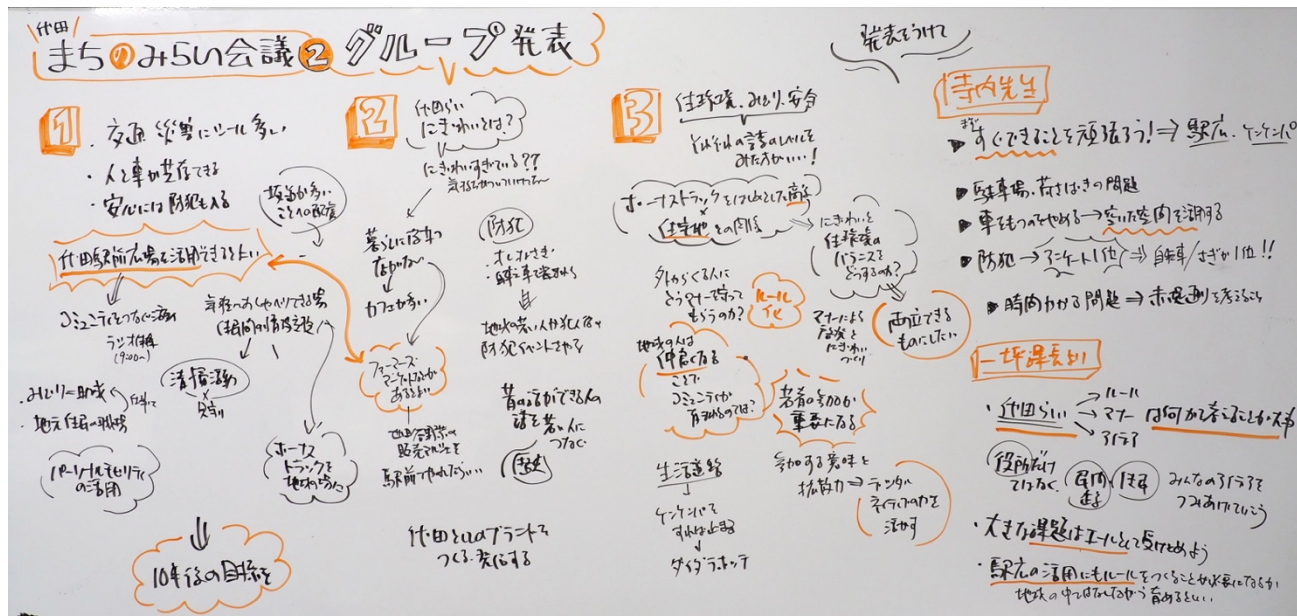


[会場からの質問]



4. 意見交換

〔意見交換のまとめ〕

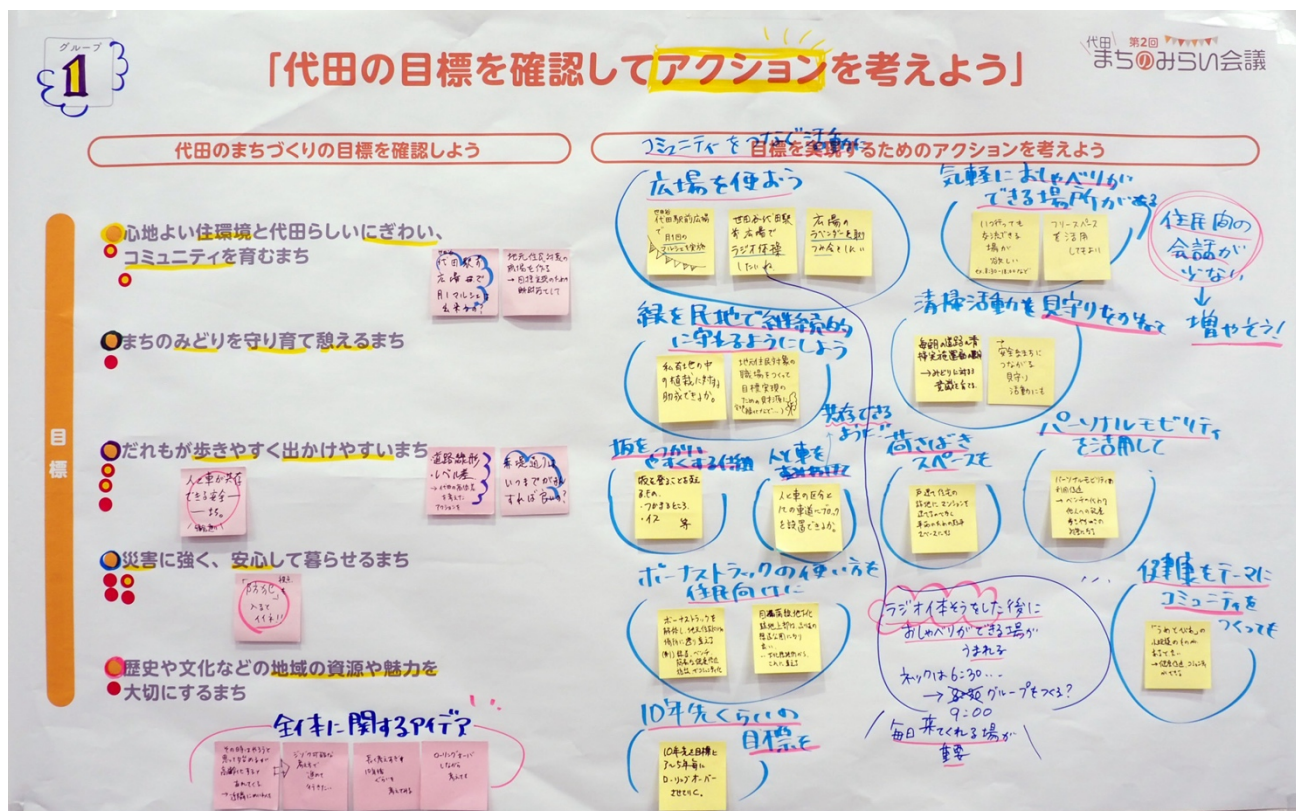


[各グループの記録]

【凡例】 □くぐりの言葉. ・付箋の内容. →補足
 こうなったらいいなのシール投票 ◎一番いいと思う ○いいと思う

1 グループ

くくりの表現をチェック！



①代田の街づくりの目標を確認しよう

心地よい住環境と代田らしいにぎわい、コミュニティを育むまち（◎2）

- ・世田谷代田駅前広場で月1マルシェ出来るの？
- ・地元住民代表の職場を作り、目標実現のための財源とする

まちのみどりを守り育て憩えるまち（〇１）

だれもが歩きやすく出かけやすいまち（◎2、○1）

- ・鎌倉通りを想定として人と車が共存できる安全なまち
- ・道路線形・レベル差といった代田の高低差を考えたアクションを起こす
- ・赤堤通りはいつまでがまんすれば良いのか

災害に強く、安心して暮らせるまち（◎1、○3）

- ・防犯の視点を入れると良い

歴史や文化などの地域の資源や魅力を大切にするまち（〇1）

全体に関するアイデア

- ・その時はやろうと思ってはじめるが、高齢化すると荒れてきて近隣にも迷惑をかけてしまう
- ・持続可能な考え方で進めていきたい
- ・長く考えすぎず、10年後ぐらいを考えてみる
- ・ローリングオーバーしながら考えても

②目標を実現するためのアクションを考えよう

- ☐ ラジオ体操なのコミュニティをつなぐ活動に広場を使う
 - ・世田谷代田駅前広場で月1回のマルシェを実施
 - ・世田谷代田駅前広場でラジオ体操したいね
 - ラジオ体操をした後におしゃべりができる場生まれる
 - ネックは6時30分という時間で、9時に実施するグループをつくるか
 - 毎日来ることができる場があることが重要
 - ・広場のラベンダーを取り、摘み会をしたい
- ☐ 民地の緑を継続的に守れるようにする
 - ・私有地の中の植栽に対する助成できるか
 - ・地元住民対象の職場をつくって目標実現のための財源にして宅地の緑化などに使用する
- ☐ 坂を移動しやすいように工夫する
 - ・坂を登ることを支えるものとして、捕まるところやイス等の整備
- ☐ 人と車が共存できるようにする
 - ・人と車の区分としての車道にブロックを設置できるか
- ☐ ボーナストラックの使い方を住民向けにする
 - ・ボーナストラックを解体し、地元住民向けの場所に造り変えて、緑道やベンチ、簡易な健康推進施設などでコミュニティ化
 - ・目蒲線地下化跡地上部は品川区の緑道公園になり良いので、下北線路街からこういったものに変える
- ☐ 10年先くらいの目標を設定する
 - ・10年先を目標に、3～5年毎にローリングオーバーさせていく
- ☐ 気軽におしゃべりができる場所がある
 - ・いつ行っても交流できる場が8:30～18:00など、時間が決まってあってほしい
 - ・フリースペースを活用してもよい
 - 住民の会話が少ないので増やそう
- ☐ 地域の見守りをかねた清掃活動を行う
 - ・毎朝の道路に清掃活動実施運動の展開によってみどりに対する意識を育てる
 - ・安全なまちにつながる見守り活動にも
- ☐ 地域に荷さばきスペースを設ける
 - ・戸建て住宅の跡地にマンションを建てるのではなく、車両のための駐車スペースにする
- ☐ パーソナルモビリティを活用する

- ・ パーソナルモビリティの利用促進で、ベンチの代わりとしての活用、他人への配慮の普及、歩きやすさの対策になる

□ **健康をテーマにコミュニティをつくる**

- ・ ふれあいカフェ「うめとぴあ」の小規模のものと良い。そこから健康促進やコミュニティの形成ができる



たにき

たにき

- たにき

たにき

- たにき

たにき

- たにき

歴史や文化などの地域の資源や魅力を大切にすまち（〇2）

- ・みどりなどは変わるが、歴史や文化は変わらない
- ・昔の代田を知ったり、子どもの頃のことを共有することが大事である

②目標を実現するためのアクションを考えよう

- ☐ 代田駅前広場で野菜や魚などを販売するマーケットを開く
 - ・代田駅前月1～2回のマーケットを開く
 - ・世田谷代田の駅前広場で週末に物産店を開催する
 - ・農大ショップ前で世田谷野菜市や新鮮な魚の市を定期的で開催する
 - ・駅前で産直野菜や果物のバザールを定期的で開催する
 - ・川場村の産品も誘致
 - ・ボーナストラックは毎月のようにやっているのだから駅前で開催する
 - ・駅前広場ににぎわいのために、ゼロ円ショップも面白いかもしれません
- ☐ 緑化に補助金を助成する
 - ・緑化に対して補助金を助成する
- ☐ お茶を家で育てる
 - ・お茶の自家栽培をみんなでやる
- ☐ 地域で犯罪や防災の訓練を行う
 - ・オレオレ詐欺の犯人役を地域の若い人が行なって訓練する
 - ・防災訓練を住民が参加しやすいように定期的に行う
 - ・火災の避難訓練を抜き打ちで行う
 - 主導する組織をつくる
 - 6丁目は防災訓練に熱心らしいが地域によって違う
- ☐ 富士山が見えることを「富士山を見る会」としてイベント化する
 - ・代田で一般宅を含めた富士山を見る会のイベントの定期開催
- ☐ 代田に由来のある文士の歴史を伝える資料館を設ける
 - ・代田文士の業績が一覧できる小さな常設拠点
- ☐ 三土代会の餅つきや神社の御神輿を継続して展開する
 - ・代田八幡の8人もちつきの下北沢駅周辺など人が集まる場所での展開
 - ・伝統芸能の継続と実演として、三土代会もちつき神社の御神輿
- ☐ 歴史文化を伝える機会をつくり、情報を整理して若い人に伝える
 - ・歴史文化について話し合いをする機会があってほしい
 - ・歴史文化について戦前と戦後について分けて整理する
 - ・歴史文化をこれからの若い世代に伝えていく方法を検討する
 - ・歴史の情報を看板等のまちなかの情報で無意識に目に入るようにする
 - 代田を好きになってもらうには情報の整理が必要
 - 情報が若い人の目に入るようにする
 - 昔の話をできる人が減っている
- ☐ 地域のイベントや資源、ブランドを地区外に情報発信する
 - ・公共側から「外」への情報発信、いいところがあることを伝える

- 協議会としても発信する
- 小田急の情報はオシャレすぎる
- ・ふくもの堂「だいたから」フリーペーパー
- ・具体案を個々、みなさまから主体的に出してもらって「ブランドづくり」をそろそろ考えてみたらどうか
- ・情報発信の手段として LINE もありなのではないか
 - 普段行かないところも知ることができると、日常の導線に入ってよい
- ・歩いていく目的地やイベントが毎週何かある
- ・代田まちづくり協議会で代田のまちの良いところマップ
 - 子どもが 15 人くらい遊んでいる広場がある
- ・みどりが豊かで歩いていて気持ちいい「おすすめの道」を紹介する
- ・みどりの植栽のつくり込みに関して良好な事例の発信を行い、周辺住宅にも波及させる
 - 家の外まわりにみどりの多いエリアがある



①代田の街づくりの目標を確認しよう

心地よい住環境と代田らしいにぎわい、コミュニティを育むまち（〇3、◎2）

- ・ マナー啓発に関心があり、そこを改善したい

まちのみどりを守り育て憩えるまち（〇４）

- ・既にそれなりに出来ている

だれもが歩きやすく出かけやすいまち（〇2）

災害に強く、安心して暮らせるまち（◎2）

- ・ 各自の防災よりも地域の防災力、避難所運営のポイントなどに関心がある
→ 誰が何を用意してくれるのか知っておきたい

歴史や文化などの地域の資源や魅力を大切にするまち（○1、◎1）

- ・若い人や外国の方にも興味を持ってもらえる工夫を考えたい

全体に関するアイデア

- ・「住環境」「みどり」「移動」「防災・安心」「歴史・文化」というまとめのキーワードがあるが、それぞれ「住環境」は幅広い、「みどり」「歴史・文化」はオブジェクト、「移動」「防災・安全」は動詞になっているので、共通して並べられるものではないのではないかと
- ・この分け方では、赤堤通りの改善といったアクションにつなげづらいのではないかと
→だれもが歩きやすく出かけやすいまち（移動）に含まれるのではないかと

②目標を実現するためのアクションを考えよう

- にぎわいを規制するルールの設定と、コミュニティ醸成と地域ブランディングによるマナーの啓発を進める
 - ・縛りすぎず、にぎわいと静かさの住みやすさを両立できる、両立したくなるマナーづくりに取り組む
 - 両立できるものにはしたい。公園ボール遊びではならないように人が来なくなってしまう
 - ボーナストラックの中の人には努力している
 - コミュニティができるとマナーも良くなる
 - ルール周知も観光で来た一見さんと地域のコミュニティの人では対応が違いそう
 - 仲良くなればマナーも良くなるかも
- イベント時などのにぎわいづくりに一定のルールがある
 - ・イベント開催のルールづくり
- コミュニティ醸成とブランディングによるマナーの啓発を進める
 - ・住んでいること、訪れることが誇らしく感じるブランディング
 - ・注意でマナーを向上させるのではなく、能動的にマナーを守れるように
 - ・路上喫煙、路上飲みがカッコ悪いという風潮になる
- LUUP を安全に利用できるようにルールをもっとしっかり伝わるように啓発する
 - ・LUUP の運用
 - 急いでルールが大切、安全面の啓発
- 自転車、ベビーカー、車いす利用者のために、生活道路の路面の凹凸を改善し、快適に通行できるようにする
 - ・生活道路の整備
 - ・今はデコボコの細い路地の整備
 - 自転車、ベビーカー、車いす、デコボコで歩きやすくないので、快適になってほしい
- 坂や階段で座れる場所を設置するなど、高齢の方が快適に移動できる工夫をする
 - ・ユニバーサルデザイン対応をさりげなくでも今一歩進めたい
 - 坂の途中のベンチ
- 生活道路でも子どもが楽しく安全に登下校できるように、ケンケンパやダイダラボッチの足跡を道路に描き、自然に誘導するなどの工夫をする
 - ・レール内を歩きたくなるような工夫など、楽しく登下校できる工夫をする
 - 自然と歩くようにする
 - 歴史の要素も入れる
 - 足跡ゾーンは子どもが多い
- みんなで育てて、誇れるようなシンボルツリーがある
 - ・みんなで育てる木
 - みんなで水やりをする
- 相続の際の敷地分割時に、みどりが減らないように求めるルールを設定する
 - ・分割時に緑化を求める
- 賃貸に住んでいる世代（20 代／学生など）のまちづくりへの参加を促すために、大学への声かけや、若者が集まっているところに意見を聞きに行く

- ・ 20 代や学生のイベントへの積極参加
- ・ 地権者として若い人や大学に声をかけてほしい
- ・ 永住ではない若い世代の関心をどう引き付けるかが問題
- ・ LINE といった受け取りやすい発信
 - イベントを知らない可能性があるので、大学にも声かけをする
 - 賃貸に住んでいる世代に参加してもらうための情報発信
 - LINE のオープンチャットは、セキュリティに問題があるが受け取りはできる
- ・ 若い世代が、面白そうな感じと思える、参加する意味のある会の開催し
- ・ 横のつながりができる
- ・ 若者の集まりに乗り込む

以上